伊津野設計
岡崎製材所
岡崎定勝さん

岡崎製材所、岡崎定勝さん

1 2 3

LINE で シェアする

中央高速から東海環状自動車道に入ると、連続いくつものトンネルが続き、美濃加茂と多治見との間に横たわる山のかたまりの下を通っていることが分かります。トンネルを抜けてすぐの可児部瀬IC を下って、平野部から山手へ、くねくねと曲がるあげくなかなか続けていくと、道はどんどん細く、くねくねと曲がる山道に変わり、峠を越えて八百津町に入ります。来たのに同じようなくねくね道を下りきると、ゆったりと流れる木曽川べりに出ました。概を渡ると、潮さんたん屋さんののぼり旗を追っかけ進まれる山間部道に出ます。

やっとうどん粉打ちする木曽川に出ての古家の町

ここ、岐阜県加茂郡八百津町に、木の家ネット会員の岡崎定勝さんが経営する岡崎製材所があります。八百津の「津」とは「船が停泊する所」。また「頭を切かえて、八の各ー集まる所」という意味です。山の中から美濃平野に出る細に点ある八百津はくらから木曽の山々からの幾やせなどの木材が集まり、下流から生活物資が届き、山の力から生活物資を買出しに来る人も集まる、水運で栄えた町でした。

木曽川の最から切出す木材は、伊勢神宮の遷宮用材として知られ、日本三大美林のひとつに数えられます。名古屋から多くの商人が、様は、多治見から中津川に入り、塩尻まで木曽谷を走りますが、沿線は、木曽福島、上松など、日本でも有数の木曽材の産地が多くあります。さらに上流には、以前木の家ネットでも紹介した農野建設店さんのように、木材に恵を受る職人さんなどもあり、山で生計をたてて暮した地域です。同じ様でも、岐阜県東濃地方の薪木産で栄えたものは、同じ木曽川沿いであっても東濃地と呼ばれます。

親子3代、大家族での暮らし

屋号の「カネマス」が語るたたたたガラスアの向こうから、岡崎さん、長男の浩子さん、長女の恵子さん・元（はじめ）さんこ夫妻と子供たち3人の子えと、次々と家族が賑やかの お出迎え。落ち着いた家並みが続く静かな通りが、いっぺんに賑やかになりました。ほかにガイサーピスに出かけた岡崎さんの お母様と、外出している恵子さんの姉さ ひさ ひさ ひさ

現場報告

岡崎製材所 岡崎定勝さん

1 2 3

Like 0 ツイート

一本の木を読み、活かしきる。それが製材所のやり甲斐

岡崎さんは二自身を「とにかく木が好きでしょうがない」と語ります。ショールームには、木質感人が訪れる場から紹介所に報告を出さず大量（お太り）が頼ってあります。「原の木視は、木のことを知り抜いていた。木を熟知の見えなけず、そのままだと等ってきた」が、中を開いたものとさらなるこいるる、オートメーションの時代になった後よりも、木を読む優れた目をもっていたんです。そうした先人の視質をこそ、そして知りていない場の通其をここに最大限活かしています。思い切ってまとまりたそうにたを見出だ、人好値だ仕事していて、岡崎さんは多くを学ばされる。

長野県スラヤ木材が使っている木材の工場。一番左に見えているのは、ニンブラ木造住宅の下敷く材

また、年に一度の家族旅行で、奥山、京都、新潟、山形に社寺や第農の部屋など、伝統建築を訪ねる際に旅を重ねてきます。「すごたた建物を見るとな、先人がどのような工夫を活かしたは巻をしているかやんんです。木の使いかを知り抜まで、見てくる。やっぱり時間が少ゃあるんです。室内入の力から声をかけられて、かしていろいろ活かれたことを多いいます。その材料や先人の技術のすばらしさを、私ならに伝えて参ようしています。

「木を読み、木を知り抜き、木を活かしきる」職人の活かし方を学ぶ木取りをする。この プロ力とは、製材をしていて一番楽しいのです。木は一本一本違う。性質がうちのは山に、手をかけて育ててくれた大切な木を、そのようにして成長すり、はじめて木造の中の部を深さを見ればいいます。先人の木取の仕方を見る目、職人の技ったを考え、それを実現する、木がが好きな岡崎さんにとっては、それが製材所実利につながるのです。

岡崎さんは製材所で、かつてみに深かったの仕同じ会社勤務材機で、ご自分のの山所所勤を長いこ。「なんもいいよ。いい暮らすよ。」自慢や気苦ぶりを明のとおにいいきりんなで。木をつんだ言とんに、調木から山の木取が来ちられるとにに、製材所ようこっぱい暮らがとこ。 こだわる伝統技を ご覧ください。（各小ぶりにからいの小間用です）。

現在の現場。伝統の原木を解体、再度で使える部材と、廃棄可能をエンジンーを取ずとて可能性を引き出す

右：「岡崎さんのシンプーの解体に来る」の、廃棄はエンジンーの解体作業に来ているそれ。 岡崎シンプーの解体を再生 ▶

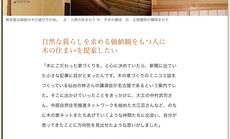
山の木を活かすことを突き詰めていったら、木の家づくりまでたどりつくことに

ところが、岡崎さんが行を新いの高度経済成長期は、昔ながらの木換の時代は は情熱がが少しと変わりやく、変化の時期でした。「機械化なりますとは、大量生産で手ぼりとさ小ばにが小ろ小ん熱いいくようにな、木を一本一本造で、とい う世界で生ってゆくわけです。原木は製品の原材料に過ぎず、木取りを常に問に合わせて、いかに無駄なくとるかだけになっていきがちでした。木が好きな自分には、どこかつまらなかった。

しかも、製材所への需要は、木造中規模のみの木を扱ってこから。名古屋市に建ててあるのは、木造の小さい木造住宅ばっかりでいました。「これだけの木の使い方は、もったいない。もっと先端が残してくれたらが多うがが。これでいいのかと、心にしっくりこないものが多ったんです。そしてついに、鋼ょりも木が好きな岡崎さんは、材木を扱いてるる製材所から、家づくりで木をがける製材所へと大転換をはじめました。「木のよさを活かす、伝えるにはどうしたらよいかを考えていったら、自然と、木にこだわった家づくりを自ら手がけることになっていったんです。

製材所で身のなかは「人と建物にかかっいる自然材のすきっぱで ちょ と の意味を木のことが学ぶ点。ある。ちんん、地元の家なにが山の木の家づくりを熱心にいる天工さんとの信頼関係と連携が あってのことで。「一本一本の木を知り抜くには どうしらたらいか、こういう風に木取りて、こういう使え、こういう 構造とを取ろう、木取りからスこと相談する者で、原木生産、木の家づくりが始まりました。

岡崎さんが現場を通って見た「その生涯を活し、山 の国の日本ようりを 、 自然を守り資源の利用に 人 間 を 結 ぶ 木 の 家 づ くりを 、 と 、 山 の 国 の 日 本 ようりを 、 と 、 三 河 地 方 の 家 造 り 職 人 さ ん の 言 葉 を 聞 く。



愛知県岡崎市の建材市場。 左：山国の日本ようりを 、 天 井 の 梁 材 。 右 ： 三 河 地 方 の 家 造 り 職 人 さ ん

自然な暮らしを求める循環観を もつ人に木の住まいを提案した い

「木にこだわった家づくりを、とよく言われていた。新聞に出ていたっさ なる記事に出ょっさっんです。木の家づくりをのエコ主張をつくっている伝山の中の人の国家を出家づくりをこ ょ ん ! 」 と、 木 に 出 会 わ ! ! !

1 2 3

Like 0　ツイート

家族の手の技と地域の資源で手作りの木の家を

「地域産材と手作りで木の家を」と提案できる岡崎さんの強みは、家族がしっかりしていることと、その家族とは、軽家族ではなく、先祖から子孫へと世代を通じてつながる家族のことです。山に以前、見学に伺ったときから、家族は子孫の世代まで含めて、木の家づくりにそれぞれのパートで関わっています。

まず、経理事務など製材所を切り盛りしながら、スタンドグラスで勝ち取り照明器具などを作られる奥様の洋子さん。政子さんが育った多治見には、昭和5年に建てられたカトリック教堂修道会の修道院があります。広大なだだっ広い中の木造3階建て、赤い壁紙と白窓の壁の建物。礼拝室には、ガラスがはめこまれており、色ガラス本通っただけの中からかさに、子どもながらに感動されたことが、スタンドグラスを始める原点となったそうです。

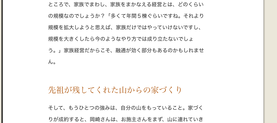
左：スタンドグラスを製作中の政子さん。右：オンリンピックをテーマにした照明器具。ガラス片選びで楽しく伸ばした好奇心の色が表いています。

岡崎さんと政子さんの間には、娘さん二人がおられます。長女の恵子さんは動めた住事先で知り合った方と（以じ）めさと結婚、元さんと3人の子孫たちとともに、家業を手伝ったお二八百屋に戻ってきました。

「ういずれ戻って家を建てるものだと、小さい頃から自然とそう思っていました。開発、結婚で10年間名古屋に住みました。建一つで戸建りできた。なんでも自分の思うようにできる軽家族だけの暮らしは快適で便利でしたが、なんだかちいさなかっちりすぎていて、そこで一生暮らす気はしませんでした。田舎はいろいろなしがらみがあって、面倒くさいけれど、それでいいやっぱり、ほっとします」

子孫たちを連れて八百屋に戻ってきた恵子さん夫婦は、一級建築士、二級建築士、宅地建物取引主任者、土地家屋調査士、測量士、行政書士と、二人でさっと種々の資格を携えて帰ってきました。これまでも住宅のプランニングは設計士が入るケースは少ないと岡崎さんがしてきましたが、建築士の資格をもったお姿さんで夫婦が揃って、万全な体制となりました。「大棟のことは、家族でやります」と、岡崎さんも強く思っているようです。

ご主人の元さんもこれまでのキャリアとはまったく別世界の仕事を、義父の岡崎さんについて、どんどん身に付けていっています。「初めの仕事は金属関係。ものづくりの実演販売という意味では同じです。金属にはないあたたかみのあるその世界に、どんどんはまっています。お酒やPSA、消防団などの活動を通して、八百津のみなさんの人柄に触れ、ここにふるさとを感じるようになってきています」



左から、岡崎定勝さん、元さん、恵子さん。

家族みんなでのものづくり

「ただ製材所をやっていただけでは、ここには平屋り夫婦しか残らなかったかもしれません。家族それぞれが自分の特技の手仕事を持ち寄って、家づくりに携われるのは、ほんとに嬉しいことです。」と岡崎さんも笑顔をほころばせます。

「製材所の仕事をするまでは、片道2時間かけて、会社に通っていました。家族との一日の会話が「行ってきます」と「おかえりなさいッ」だけ、という日々でしたね。今は、家族というよりいろいろな友達、そして、家族でものづくりができる幸せを感じています。義父がだまされて元気なので、いろいろなことをたくさん吸収しいでする。」と、元さんもこの暮らしの変化をよいこととして受け止めておられました。

「小回りが効くことが家族経営のよさ」と、岡崎さんは言います。原木生産、製材、建てさまんとの打ち合わせ、設計、インテリアなど、施工そのものはほんとにを手作りで家族のできるなんです。「家族経営での手作りのものづくりということで、ハウスメーカーにはできないことができるのではないでしょうか」と自子さんは言います。

ところで、家族でまわる、家族をまかなえる経営とは、どのくらいの規模なのでしょうか？「多くて年間5棟くらいですね。それより規模を拡大しようと思えば、家族だけではやっていけないです。規模を大きくしたらやのようなやり方では行かなくなりますし。」家族経営だからこそ、融通が効く部分もあるのかもしれません。

先祖が残してくれた山からの家づくり

そして、もうひとつの強みは、自分の山をもっていること。家づくりが成約すると、岡崎さんは、お施主さんを案内します。山に連れていきます。「先祖が残してくれたおかげで、お施主さんと山のあかるの家づくりを提案できます。ありがたいことです。」

取材の最後には、岡崎さん、娘さんご夫婦とお孫さんの定英君と一緒に山に連れていっていただきました。定英君は、地下足袋を履き、腰に鉈をさげた「山ドレ」な出で立ち。「ここからがうちの山だよ！」と自信をもって言えてくれました。岡崎さんにそっくりな、ご自慢のお孫さんです。

左：山ドレスをとる孫子定英君とそする岡崎さん。右：開たちも山には慣れたもの！

山には、尾根筋から名道がついていて、その両側の斜面に岡崎さんの年齢以上の樹齢の立派な檜やもがひろ広がます。定英君をと同親も、歩き慣れた山のようです。ずいずいと斜面をおりていきます。一本一本の木を見上げて、岡崎さんが立木の良し悪しの見分け方などを話してくださいます。お施主さんもとちらってこに来る岡崎さんに同行することで、頼さん中お孫さんがあのことを自然と覚えていくのでしょう。

「お施主さんには「この中からあなたの家の大黒柱になる木を選んでください」と伝えましょうです。ひとつひとつの木を見て「これにします」と決めていただきます。現採にもできるだけ立ち会っていただきます。山のあが家になることを実感できて、とても感動的です」こんなこともあったそうです。「子供さんに恵まれないご夫婦が大黒柱に選ばれた木を伐ってみたら、内側にもう一本木を抱き込んでいる。はっこちりのあたったんです。その直後にそのご夫婦は、お子さんを授かったんですよ。木のちいのかたちをいただいての家づくりには山には不思議なことも起きるのです。

Like 0　ツイート

1 2 3

関連する記事はこちら

- 板倉設計工房 特技ものがたり part1 -概要編
- 3.11後を生き抜くコミュニティーの力 ”仕事”を福興進よう
- 工務店・山本ホーム さんK 高工房品 ：産の街の再生 ものがたり
- 大工・金田先輩さんとK ”ぼくらの山就業」：幸せをつくる大工
- NPO開張場わいば園・先家工房 「この家が欲しい！

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市玉島7-2-60ビ第3ル
芳森色門
mail：info@ecohouse-w.net
tel：086-486-5464

地域別つくりダリスト

北海道・東北	関東（東京以外）	中部諸・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道	栃木県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県
青森県	群馬県	富山県	静岡県	京都府	岡山県	佐賀県
岩手県	埼玉県	石川県	愛知県	大阪府	広島県	長崎県
宮城県	千葉県	福井県	三重県	兵庫県	山口県	熊本県
秋田県	神奈川県	山梨県		奈良県	徳島県	大分県
山形県	関東（東京）	長野県		和歌山県	香川県	
	東京都				愛媛県	
					高知県	

(C) 職人がつくる木の家ネット Shokunin ga Tsukuru KINO-IE net. All rights reserved.